

第10回
彼岸花
映画祭
IN津

入場無料
チケット不要

会場収容人数：1,650人

松本清張原作。人間の宿命を追った胸迫る感動の推理ドラマ。名曲「宿命」をバックに日本の美しい四季の映像が展開。三重もロケ地に。



上映作品
「砂の器」

©1974・2005 松竹株式会社／橋本プロダクション

2024年9月28日(土) 開場:12時
開演:12時30分

場 所

三重大学 三翠ホール 【〒514-8507 津市栗真町屋町 1577】

近鉄名古屋線「江戸橋駅」徒歩20分 三交バス停「三重大学病院前」徒歩10分
※可能な限り公共交通機関の利用にご協力ください。

第1部

12:30 ~

「映像を彩る名曲の調べ」

演奏とお話：兼重直文(ピアノ)、吉鶴洋一(ヴィオラ)

プログラム

- ・菅野光亮：ピアノと管弦楽のための「宿命」より抜粋 ~ 映画「砂の器」より
- ・ドヴォルザーク：4つのロマンティックな小品 Op.75 より
- ・ラフマニノフ：ヴォカリーズ Op.34-1 ほか

第2部

14:10 ~

映画解説 西松 優(彼岸花映画祭実行委員)

第3部

14:25 ~ 16:50

映画『砂の器』上映 (1974年 松竹株式会社／橋本プロダクション 143分)

監督：野村芳太郎 脚本：橋本忍、山田洋次 音楽：茶川也寸志 出演：丹波哲郎、森田健作、加藤剛、島田陽子、佐分利信、緒形拳



兼重 直文

東京藝術大学卒、三重大学名誉教授、1995年「津市文化奨励賞」、2021年「三重県文化功労賞」、2023年「東海テレビ文化賞」受賞



吉鶴 洋一

三重大学教育学部卒業、愛知県立芸術大学大学院修了、新日本フィルハーモニー交響楽団ヴィオラ奏者

問い合わせ：彼岸花映画祭実行委員会事務局 Tel.090-3389-1454 E-mail：higanbana1958@gmail.com

主 催：彼岸花映画祭実行委員会 共 催：国立大学法人三重大学、津市

後 援：三重県、松阪市、三重県教育委員会、津市教育委員会、伊勢市教育委員会、亀山市教育委員会、志摩市教育委員会、中日新聞社、朝日新聞社、毎日新聞津支局、産経新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社津支局、伊勢新聞社、共同通信社津支局、時事通信社津支局、三重タイムズ社、三重ふるさと新聞、夕刊三重新聞社、NHK津放送局、三重テレビ放送、三重エフエム放送、株式会社ZTV、津文化協会

助 成：公益財団法人岡三加藤文化振興財団

特別協賛：島田昌機・純子「彼岸花映画祭」基金 協力：松竹(株)、(株)キヒラ工房、高田短期大学

彼岸花映画祭と小津安二郎監督顕彰記念碑

津市は小津監督の祖母と母親の出生地であり、津観音近くの祖母の家に監督も少年時代からたびたび訪れました。2015年3月、津観音境内に映画監督・小津安二郎の記念碑が建立されました。建立にあたって、今は亡き大林宣彦、高畑勲をはじめ、山本富士子、司葉子、山田洋次など著名映画人（敬称略）を含め、県内外、海外から合計1,040名余の協賛が寄せられ、その名前は句碑裏面に刻まれています。そして記念碑建立を契機に、同年、彼岸花映画祭実行委員会が発足、以来、小津監督とその作品を顕彰するとともに、地域の人に映画を楽しんでいただき、映画による地域の文化振興に寄与するという目的で、毎年、津市及び三重大学の共催を得て、「彼岸花映画祭 in 津」を開催しています。今回の映画祭は第10回の節目に当たります。



記念碑と彼岸花(津観音境内)

映画『砂の器』紹介

原作は松本清張の新聞連載の長編推理小説。「張り込み」「ゼロの焦点」の清張作品の映画化では定評のある野村芳太郎監督のサスペンス。殺人事件を追いつける刑事の執念と犯人の宿命的な生きざまが日本の四季折々の風景をバックに映し出される。日本映画界を代表する脚本家の橋本忍、山田洋次による脚本は重層的なテーマのストーリーを丹念に描き出す。劇中で流れる交響曲「宿命」は作品をより抒情的にする。丹波哲郎、加藤剛などの豪華なキャストもそれぞれが持ち味を存分に出している。三重も映画のロケ地となり、伊勢二見の界限や近鉄電車も登場する。

1974年 松竹／橋本プロダクション

監督：野村芳太郎 脚本：橋本忍、山田洋次 音楽：芥川也寸志 作曲：菅野光亮

出演：丹波哲郎、加藤剛、森田健作、島田陽子、山口果林、佐分利信、緒形拳、加藤嘉、笠智衆、渥美清 他

上映時間 143分

